

## 卒業式式辞

寒さがやわらぎ春の日差しと息吹を感じ、梅花馥郁たるこの良き日に、東京都立小平南高等学校第38回卒業式が挙行できますことを、心より深く感謝申し上げます。

第38期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、本日はご多用の中、東京都議会議員竹井ようこ様、小平市立第四中学校長関勝志様、国分寺市立第三小学校長古林香苗様、学校運営協議会委員今村泰子様、同窓会副会長田原大輔様、PTA会長丸山千恵子様には本校卒業生の為にお時間を頂戴し足をお運びくださいました。高い所からではありますが、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

そして、入学以来今日まで、お子様を支え励ましてこられた保護者の皆様にもご卒業を心からお祝い申し上げ、さらに三年間本校の教育活動に御理解と御協力を賜わったことを、教職員を代表してお慶びと御礼を申し上げます。

私が皆さんの顔を最初に拝見したのは昨年1月7日放送による始業式終了後に当時2年生の教室廊下を歩いているときでした。先程、呼名時に皆さんの顔を拝見して高校3年間の学びを得て、立派に成長したという自信と誇りを感じました。また、見事な進路実績を上げられ、皆さんはコミナミの歴史に38期生として確かな足跡を残され、「努力、自律、英知」というコミナミ伝統のバトンを後輩に渡すことができました。今後はそれぞれの進路で精一杯活躍されることを確信しております。

皆さんは中学3年生3学期のころから新型コロナウイルスの影響により、通常の活動ができなくなり、入学式前日に突然式の開催中止が決まり、授業再開後も色々な制約が重なり思うように先輩・後輩との交流が図れなかったと思います。私が昨年1月に着任して最初に行ったことが修学旅行中止の決定で、続いてオミクロン株による急激な感染拡大の対応でした。状況が好転せず修学旅行の代替案も予定通りに実行できず、仕方のない状況下ではありましたが、残念な思いをさせてしまい本当に申し訳なく、保護者の方にもご迷惑をおかけしました。この場において改めてお詫び申し上げます。修学旅行には足りませんが、そのせめてもの償いとして考えたのが、文化祭終了後にもう中学生さんを、昨日の予行終了後に歌手の秋川雅史（あきかわ まさふみ）さんをお招きすることでした。また、学年担任からの発案で「東武鉄道未来エールきっぷ」を申し込み無事通りました。是非、活用してください。

さて、ご承知のとおり榲と銀杏は本校の校章に使用されております。本校建設前の敷地に生息していた榲と銀杏は今も敷地内に移植されており、本校創立以来40年の歴史を見守っています。榲は頑丈であることから強い木と書いて「強木」と称され、銀杏は長寿と莊嚴を意味します。また柏の葉も多くの学校で校章に使われており、枯れても次の新芽が出るまで決して落ちないところから「長く続く」ことを意味します。このことを忘れないでほしいのです。

皆さんが今この場にこのようにいられるのも御両親や様々な方々のおかげによるものです。これからの人生その恩を知り報いて欲しいのです。恩に報いるといっても決して縛られることではありません。それぞれの進路で精一杯活躍し次代の社会を担い、また柏の葉のように後輩たちにも伝え活躍していくことが報恩になります。そしてご両親をはじめお世話になった方々に孝を尽くしてください。

最後になりますが、今世の中は自然環境、人類ともに激動の様相を呈しています。大変な時こそ以前お話しした「応変」という言葉のように、根本をわきまえて外界の変化に適応してい

くことが大切です。長い人生です。今まで以上に辛い局面に立たされることがあるでしょう。決して諦めることなく怯むことなく前進していきましょう。奇しくも昨日の秋川さんの最後の歌唱が「翼をください」でしたが、前庭「翔く」の銅像の鳩のごとく七つの海を越えて理想の空へ悠々と力強く飛び立つのです。皆さんは国難ともいうべき、新型コロナウイルスに耐え戦い乗り越えてきました。

心身の健全と益々のご活躍を祈念し、ピンチをチャンスに変えるコミナミ卒の意気込みを期待して、校長式辞と致します。

令和5年3月8日 東京都立小平南高等学校長 中野 清吾